

・弥与苗・八千歳踊(やよな・やとせおどり)(干ばつの時のみなど不定期)

(三豊市)

■ 高津神社



長久4年(1043年)の干ばつの時に、雨乞い祈願をしたところ、恵みの雨が降ったので、一社を祀ったのが雨宮神社であると言われ、その喜びを表したのが弥与苗踊と伝えられています。

八千歳踊は、百足(むかで)退治の伝説を歌っている盆踊りで、「みちびき」の太鼓の曲打ちを合図に、弥与苗音頭、八千歳音頭と順に踊られます。

雨乞いの場合は、四隅にしめ縄をめぐらし、踊り手はみの笠姿で手にうちわを持ち、入業(いりは)、弥与苗(やよな)、長生(ちようせい)、御元(おもと)、糸巻(いとまき)、すくい六曲をそれぞれ3回ずつ雨が降るまで歌い踊り続けると伝えられています。(県指定無形民俗文化財)